

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和7年1月22日（水）

### 2 確認箇所

3号機タービン建屋、3号機廃棄物処理建屋（建屋間ギャップ端部止水対策施工現場）（図1）

### 3 確認項目

建屋間ギャップ端部止水対策の状況

### 4 確認結果の概要

東京電力では、地下水バイパス・サブドレン・陸側遮水壁（凍土遮水壁）の維持管理運転、建屋屋根破損部補修及び建屋周辺のフェーシング等により建屋内への雨水や地下水の流入抑制を進めており、更なる流入抑制のため、地下水が流入する可能性がある建屋間ギャップ<sup>\*</sup>端部止水対策を実施している。

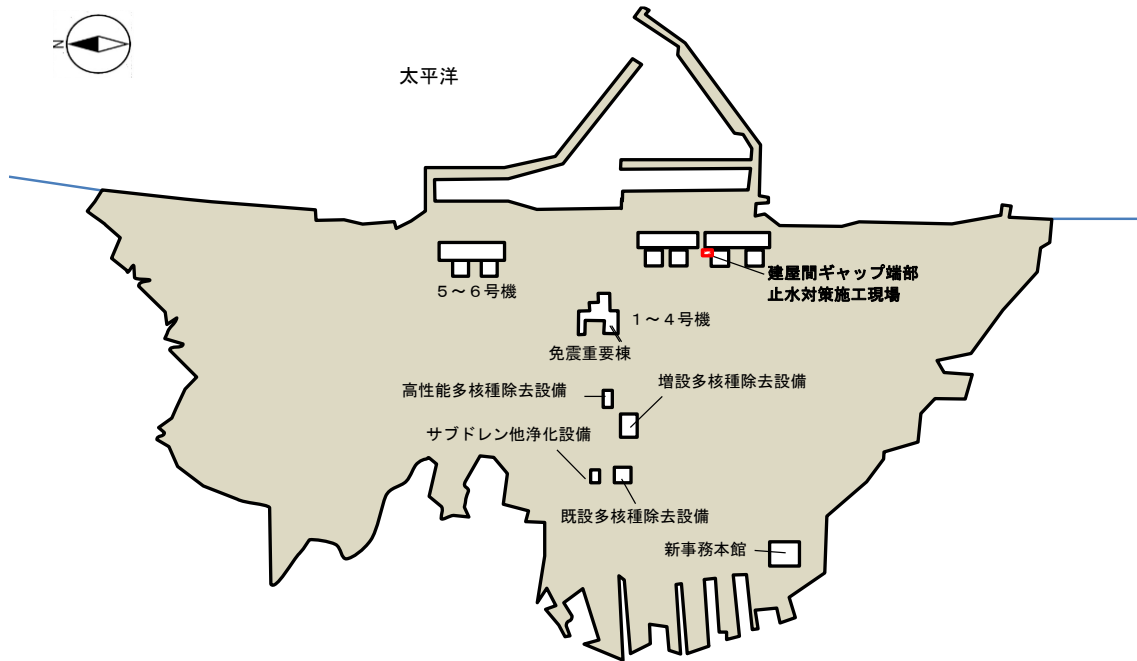
現在、昨年度に実施した5/6号機建屋間ギャップにおける試験施工での知見を基に、より空間線量率が高い3/4号機建屋間ギャップでの施工が進められている。

本日は、3号機タービン建屋－廃棄物処理建屋間において実施されている建屋間ギャップ端部止水対策の状況を確認した。（前回確認日（4号機建屋間ギャップ）：[令和6年6月7日](#)）

- ・建屋間ギャップ端部止水対策の施工箇所の上部には、遮へいシートで覆われた仮設ハウスが設置されており、その内部には建屋間ギャップ部の削孔に使用するボーリングマシンが設置されていた。（写真1）
- ・被ばく低減対策の一環として、3号機タービン建屋北側の道路に、施工状況を遠隔で確認するためのモニターカーが配備されていた。モニターカー内には、ボーリングマシンや削孔部の映像を映し出すディスプレイが設置されており、施工管理者がモニターを確認しながら無線を用いて削孔に関する指示を出していた。（写真2）

※建屋間ギャップ：原子炉建屋周辺の建屋同士を隣接して建設する際に設けている

外壁間の隙間（50～100 mm）のこと。建屋間ギャップ内には、発泡ポリエチレンが設置されており、地下水が地盤側から建屋間ギャップ部に浸入すると配管等貫通部から建屋内に地下水が流入する可能性が考えられる。そのため、建屋間ギャップ部の止水対策として、外壁端部をボーリングで削孔し、削孔箇所にモルタル等を打設して止水部を構築する工法が採用されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
施工箇所周辺の状況



(写真1-2)  
ボーリングマシンの設置状況



(写真 1 - 3)  
削孔に使用したケーシングパイプ及  
びビットの状況



(写真 2 - 1)  
モニターカーの状況



(写真 2 - 2)  
モニターカー内部の状況

## 5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。